

第40回 桂島緑地未来プロジェクト編



▲定期活動の様子。3月から11月まで、月2回、清掃や垣根の刈り込みなどを行っています

古今東西 ぐんぐん 行きます!

郡市長がさまざまな現場を訪問し
市民の皆さまの活動の様子などをお伝えします

泉区の桂島緑地で、緑地の保全と整備に取り組む桂地区のボランティア団体「桂島緑地未来プロジェクト」の皆さんにお話を伺いました。

荒れた緑地から始まった活動

桂島緑地は、およそ7・9ヘクタールの広大な面積を持つ、自然豊かな緑の名所です。ここで散歩道や東屋の保全、花壇づくりなど、多岐にわたる活動をされているのが、桂島緑地未来プロジェクトの皆さん。現在、39人が在籍しており、私が伺った日も、朝から散歩道の清掃をなさっていました。落ちた枝や葉が手際よく集められ、あつという間に散歩道がきれいになっていきます。

「以前は木や草が生い茂り、うっそうとして、人けもなく、荒れていました」と話すのは、代表の大竹利幸さん。そこで、この緑地を四季の彩りにあふ

れ、人々が憩い集う場所にしようと、平成26年3月、桂地区の住民の皆さんによりプロジェクトが発足。「散歩道の清掃から始まって、そこがきれいになっていくと『次は東屋周辺や垣根もやる』という声が自然に上がって。活動の幅が広がっていききました」と大竹さんは振り返ります。緑地南側のアヤマ園づくりもその一つ。菊地ヨシ子さんは「きれいな花が咲いたらいいなと思



▲桂島緑地。二つの堤や林の中をめぐる散歩道があります

いながら作業しています。楽しいから続いています」と笑顔で話してくれました。近頃では地域の方が散歩中にごみ拾いをしたり、親子で虫捕りを楽しんだりする姿も見かけるのだとか。緑地の変化や皆さんの活動への思いが多くの人に伝わって、目指す憩いの場が今まさに作りだされているのですね。

未来への展望を描いて

プロジェクトでは、緑地の中に自生する植物の調査・保護活動にも力を入れています。遠藤美穂子さんは「住宅地の中に、カタクリなどの山野草が群生しているのは希少だと感じます。子どもたちにこの環境を残してあげたい」と思い活動をしているそう。安達左千夫さんは「子どもたちがここで遊んだことを覚えていて、将来、自分の子どもを連れて故郷に戻ってきてくれたら」という願いがあると話します。地域の未来まで見据える皆さんの言葉に、私も胸が熱くなりました。

緑地を未来に引き継いでいくためには、若い世代に活動を知ってもらうことも重要です。プロジェクトでは、ウェブを使った情報発信や、地域の方との交流を積極的に行っています。大竹さんは「アヤマ園がいずれ地域の名物になるよう、頑張りたいですね。活動の成果や自分たちの後ろ姿を見て、若い人たちについてきてもらえたら」と期待を込めて語りました。

地域を大切に思う心を育む

丁寧に入手を入られた木々や草花と、豊かな緑に囲まれた水面が織りなす緑地の景観は、本当に見事でした。これまで地道に活動を続けてこられた皆さんの努力に、頭が下がる思いです。また、地域全体で美しい緑地の保全に取り組むことで、住まう街への愛着と誇りが育まれ、次の世代にも受け継がれていくのだと感じました。

「杜の都」は、市民の皆さんとともに作りあげてきたもの。これからも皆さんと手を携えながら、豊かな自然環境とそれを大切に守り育てる心を、未来に継承してまいります。

団体紹介

桂島緑地未来プロジェクト
<http://jc21sp.com/kfp/>

大竹利幸さん 安達左千夫さん
遠藤美穂子さん 菊地ヨシ子さん